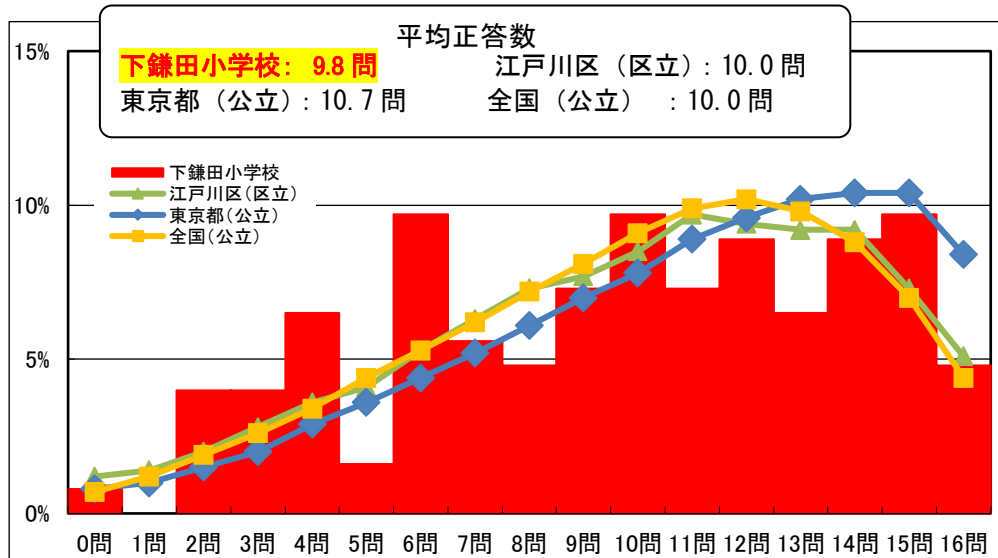


令和5年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 下鎌田小学校

正答数分布



<四分位における割合(都全体の四分位による)>

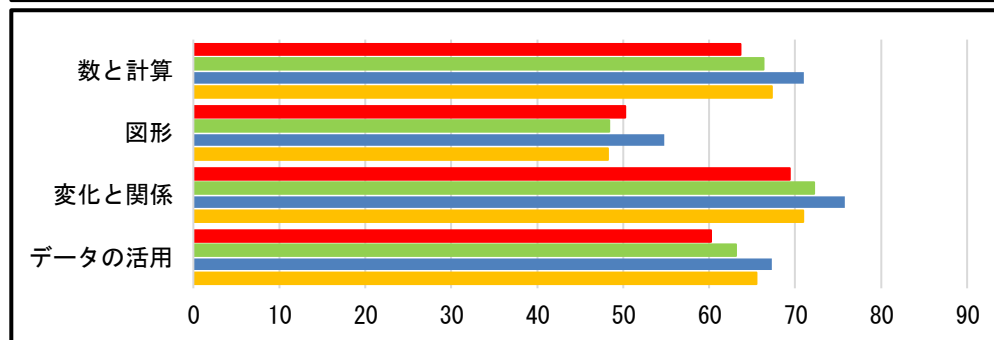
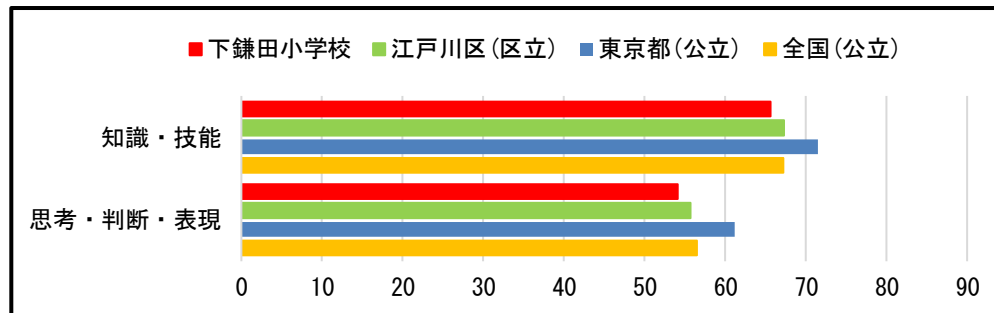
算数	上位 ← → 下位			
	A層 14~16問	B層 11~13問	C層 8~10問	D層 0~7問
下鎌田小学校	23.4	22.7	21.8	32.2
江戸川区(区立)	21.6	28.3	23.5	26.6
東京都(公立)	29.2	28.7	20.9	21.2
全国(公立)	20.2	29.9	24.4	25.5

【平均正答率の差】

下鎌田小学校	61%
江戸川区(区立)	62%
東京都(公立)	67%
全国(公立)	62.5%
都との差	6ポイント

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【分析結果と授業改善に向けて】

算数の平均正答率は、都平均・全国平均どちらと比較しても下回っている。

設問ごとにみても、①正方形の意味や性質について理解しているか、②示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるか、③示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるか、に関する設問に対する正答率が全国平均と比べ、本校は5%以上低くなっている。

正方形のみならず図形の定義と性質への理解、グラフの読み取りに関する指導の工夫・改善をしていく必要がある。